

【有識者による事務事業点検の評価】

「飛島村教育委員会に関する点検と評価の報告書」意見聴取会のまとめ

《招集年月日》 平成30年6月29日（金）

《招集の場所》 飛島村中央公民館 3階 第2会議室

《開会》 午後1時55分

《閉会》 午後3時06分

《点検評価委員》

元名古屋女子大学 文学部 講師	伊藤 勝康 氏
名古屋芸術大学 人間発達学部 准教授	溝口 哲夫 氏

《欠席委員》 なし

《職務のため出席した職員》

教 育 長	田 宮 知 行
教育部長兼教育課長	佐 野 まゆみ
教育部次長	赤 田 由起江
生涯教育課長	奥 村 義 明
図書館長兼プール館長	早 川 清 司
教育課主幹	五十嵐 雅 裕
教育課課長補佐	後 藤 き み

《委員会議事内容及び経過》

別紙の通り

別紙

《委員会議事内容及び経過》

1 教育長あいさつ

2 教育委員会に関する点検と評価報告書について

3 意見聴取

委 32年度義務教育学校開校に向けて、会議を持っておられるが、具体的にどのような話し合いがされ、実施に向けて現実的な課題はどんなものか具体的に教えていただきたい。

次 すでに、小中一貫教育校なので、大きく変わることはなく、まずは、区分が小学校、中学校ではなく、義務教育学校という枠に入り、前期課程・後期課程となる。校名は「小中一貫教育校」が外れる。また、校長が現在2名から1名となる。小学校の卒業式と中学校の入学式はやってもやらなくてもよい。今後は、4・3・2制をどうするか。PTAの組織、校長1人減の代わりに増員はあるのか等、しくみの検討を行う。

委 私も義務教育学校の認識がはっきりしていないが、教員が小学校、中学校と分ける必要がなくなり非常に良いと思う。中学部の先生が、小学部の授業をみる。スムーズになって良いが、実際問題、県から配置される教員が両免許を持っていないといけない。教員の枠がどうなるのか。県はどう対応するのか。

次 義務教育学校に踏み切ろうとした時に、義務教育学校になっている学校へ視察に行き教えていただいた。義務教育学校の教員の定数配置はない。通常、国や県から通達されてきたものを村は行っていくが、村から「やりたい」と申し出たため、こちらから県へ要望を出す形となると聞いた。3月に、教育長が県の教育長へ、32年度義務教育学校を開校予定であることを伝えに行ったところである。なので、教員の配置等はまだ決まっていない。小中の両免許は必要になるが、当然、早急に揃うわけではないし、偏りがある。中学免許のある人は、小学校で専科の授業はできるが、その逆はできないので、校長の経営マネジメントが問われることになる。

委 保護者は「何が変わるんだ」「変わらないのじゃないか」等、どう見ているのか。

次 教員も同じで、「何が変わるの」「どう変わるの」と思っている。この8～9月にかけて、質問形式でわかりやすくプリントにまとめ、教員、保護者や地域の方に説明したいと考えている。

教 教員の配置については、義務教育学校になったとしても大きくは変えないような状況でスタートする予定。県の方もいきなり対応は難しいため、現状どおりとなると思う。ただ、校長が1名になることによる管理職の配置とか、教員の増員とかは検討していきたい。養護教諭や事務職員は定数配置になるかもしれない。義務教育学

校は全員、小中両方の免許があることが原則だが、当分の間はこのままで行くことになる。義務教育学校の指導要領もない。理想的な人員配置はすぐにはできない。委 2016年に教育長から、義務教育学校のメリット、デメリット、方向についてどうするかという宿題をもらっている。あまり多くの情報は無いが、小中一貫教育校の実績は9年続いており、あまり急がれない方がよいのではないか。十分、小中一貫教育のメリット、効果は証明されてきたのではないかと思う。インターネットの情報でも、メリットとして、進学ギャップがない、部活動の指導が小中でできて良い、コストダウン等があるが、デメリットは、20くらいある。先程から話題になっている「小中の免許を持っていること」については、一つの教育委員会、あるいは海部津島、県レベルでも、おそらくそんなに簡単には前進しないと思う。実際に、大学で小中の免許資格が出せるところがどれだけあるか。

委 本大学の芸術学部は中高だけ、人間発達学部は小だけである。

委 小中の資格が取れる体制の大学が、どれだけできるのか。義務教育学校について、それほど急がれる必要は無いのではないか。同時に、小中一貫教育の周知がどこまで行っているのか。小中一貫の良さをさらにPRしていただき、もう少し世の中の動きを見ていただく方がよいのではないか。今、学園で小中の両免許を持っている人がどのくらいの割合があるか。

次 小学校が約6割、中学校が約半分である。

委 そんなに急がれず、小中一貫教育の良さというものを前面に出しながら、課題を一つ一つクリアしていかれる感じで良いのではないか。

次 意見をいただけてありがたい。実は、義務教育学校がすごく良くて、切り替えようとしているわけではない。平成の大合併の時に、学校も統廃合して、地域から学校が消えてしまうことが他の市町村であった。地域から学校がなくならないように、小中をくっつけ、簡単に吸収合併されないようにした。小さな自治体は、それしか生き残る方法はないと、小中一貫校に踏み切ったところが多い。飛島学園もそれが根幹にあり、9年間、いろいろと工夫をして運営をしてきた。

しかし、小中一貫教育校というが、組織的には二つの学校であり、二つの学校が一つの学校として見せるには、小学校・中学校として運営する以外に、もう一つ、打合せ会や情報交換会を常に持って、共通理解を図らなくてはならない。兼務申請も必要になり、枠を超えた業務をこなすことになる。当然、先生たちにとってはやりにくいし、負担もかかる。また、以前は、総合的な学習の時間が多くあり、小中の交流等もまだやり易かった。現在は、その時間も減り、小中の交流も難しくなってきた。先生たちも疲弊していたので、一つの学校としての組織をきちんと立ち上げようと踏み切ったのが、義務教育学校開校の流れである。一つにした場合、教員の配置の問題等、大きな課題もあるが、それをやっていくのが、教育委員会に求められることだと思っている。

委 中学校の部活は、平日1日休みと、土日のどちらか1日を休むという週休2日。平

日2時間、土日3時間の練習と聞いている。しかし、実態としては協会や連盟の試合がある。先程のデメリットの中の「教職員の多忙化」ということで、義務教育学校になっても教職員の多忙化は予想される。それを少しでも減らそうと、非常勤講師やボランティアの支援、出張を減らす等、いろいろやっているだろうが、また新しい多忙化が出てきてしまうのではないか。中学でも部活動をどんどん制限して、多忙化は解消に向かうであろうが、今までやってきた成果とか、先生と生徒との間で、「なぜ無くしてしまうの」「もっとやってもらえないの」という声はあがる。「先生が倒れるくらい頑張っている」と言っても理解してもらえない。義務教育学校になった時、課題もどんどん出てくると思う。ある意味、コンパクトな4・3・2制を改正していくというところに力点を置かれて進められるのが良いのではないか。流れに逆行するが、あまり急がないことだと考える。

委 義務教育学校にするかどうかについては、小中一貫校の成果を、こういった報告書の中にも、具体的にあげられた方が良い。別件で、コミュニティスクールは、学園の中に持っているのか。

教 行っていない。今年、あま市がやるようであるが、飛島もそういう方向に行くとは思う。

委 北名古屋市はすでにコミュニティスクールが始まっている。よい面は、地域の人が入り、学校の子どもたちが支援してもらえるところである。ただ、小中がそれぞれ独立しているので、同じ問題でも、小中別々に対応している。非常に煩雑と感じる。ましてや、北名古屋市内には小中が16校あって、それぞれでやっているの、市で、コミュニティスクールの在り方、方針を打ち出してやった方がいいと思う。飛島村は一つの一貫校なので、その辺の煩雑さは解消され、入る地域の方の学校に対する意識も変わっていくので良い面を感じるが、他市町では煩雑であると感じる。

教 飛島は1校なので、そういった煩雑さはない。将来的にはその在り方について、我々も研究していかなければいけない。

委 P8に「地域と連携した学校教育の推進」がある。関係してP12があるが、学校と社会や会社との連携についてどうなのか。飛島には南の方の臨海部に、有名な会社があるが、カリキュラムの中にその企業の人を招いて話を聞く、あるいは、体験で2～3日出かけるとか、お願いできるとよいと思うが、やっているのか。

部 中部電力が工場見学、三菱重工は出前講座がある。また、木材関連として、プレカット工場の見学とかリサイクルの現場等に積極的に来てくださと言われており、学園にはいくつかの紹介が来ている。その中からそれぞれの学年にあった内容を振り分けて対応している状況である。

次 ありがたいことで、地域の多くのところが協力をして下さり、職場体験もやっているが、学園はもう行事が入らないくらい、年間スケジュールに行事等がびっしり入っている。今後、一貫教育として、どの学年で何をやっていくか。しっかり積み上げていくことが大切であると考えている。今、聞かせていただいたことは全部課題

に上がっている。この2年間で、小中一貫教育校のまとめをして、義務教育学校につなげていきたい。

委 やり甲斐があるね。

次 はい。是非、今後もご指導いただきたい。

委 社会教育事業について、講座の運営には苦勞していると思われるが、行政の担当部局が講座を開くのではなく、例えば、企業が社会教育事業を担って、行政と相まってやるとか、学校の子どもたちにかかわっていくとか、実際にあるのか。

部 親子木工教室を木材関連企業の協力を得て、今年は本棚を作成する。また、中部電力が、この春、工事が終わり、親子見学会を実施する予定である。できるだけ地元の企業を紹介することを、村としても考慮していきたい。将来、子どもたちが地元の産業にかかわること、企業は雇用につなげていきたいと望んでいる。

委 本大学でも市民のための講座を開いている。飛島村も企業との連携ができると良い。名古屋港木材団地とのつながりは昔からあり、今年の木工教室も希望者が受付枠をはるかに超える状況であった。過去には、地元の生産品を使った教室も行った。

委 P13「いじめ・不登校の問題」で、協議会等があるが、教育委員会と教育課、学校との情報共有は、どんな問題でも必要がある。大変ないじめや不登校、死にかかわる、またそれに近いような事例も世間ではある。飛島村では、そこまで深刻な事例はないかもしれないが、警察・児相・教育課・保健福祉課・民生委員等、あらゆるところとのパイプを太くしていただき、いつでも機能できるようにしていただきたい。すでにやっていたらいいとは思いますが。

次 毎月、子育て支援会議、要保護実務者会議、個別ケース会議を行い、関係機関と学校との連携はとっている。さらに、毎月の村校長会でも、現状や対応を伝えていただいている。

委 P14「青少年健全育成」のところで、とびしま・ペアレンツの会員の方が74名もみえて、夜の避難訓練を行ったことは羨ましく思う。凄い試みである。せっかくなので、避難訓練に参加された人たちが、村主催の8月の避難訓練と関連付けた試みがされると良い。是非、村全体の中にも反映した活動がなされると良い。

「平和推進事業」で、ここまでやっている自治体はそうないと思う。ヒロシマへ行き、その体験を伝え、原爆のパネルを展示。4名の被爆者による体験を聞く会をもつ。子どもたちの平和についての意識というのは、変わってきているのかどうかを知りたい。世界の情勢が、アメリカファーストとか言っている状況の中、平和について小さいうちから教育していく必要がある。平和に対する危機感とか考えとかは、風化しないように、常に平和に対する意識がどうなのか、分析を加えた中での施策というのが、これからもっと必要になってくる。子どもの頭の中では、ほっといては出てこないと思うので、広島に行った報告の中で、簡単に平和は維持できるものではないこと、自分たちでできることは何か、大人になって何をしなければいけないか、ということについて、教育委員会も、子どもの心の状態を把握し、取り

組みを進めていっていただきたい。

委 図書館活動推進事業は、すごく充実したものをやっている。本大学の中に、こどもコミュニティセンターを開催したところ、最近、保育園・幼稚園に入れていない子どもを連れてお母さんの利用が増えている。集まることによって、子育ての悩みを親同士が会話し、解消する良い場になっている。どの地区でも、自分で子育てをしている母親のよりどころとなるものは必要と感じている。飛島の図書館活動推進事業が、そういう意味で利用される方が出てきており、充実していると思う。海外派遣事業では、多くの人数が研修に参加しているが、学年全員参加か。

生 1人、全国大会に参加した生徒が応募しなかったが、あとは、8年生全員参加。

委 これは、日本全国まず無い。せつかく学年全員で体験をしているので戻ったら、その体験を生かした何か取組を子どもたち自身に考えさせれば、さらに事業の意義が増える。目に見える形で子どもたちが進めることは、素晴らしい事業になっていく。

委 P15「文化振興事業」で、ふるさとフェスタにたくさん参加しているが、飛島村に何人みえるのか。子どものアンケートに「伝統芸能の鑑賞を望む声が多数」とあるが、子どもたちが伝統芸能をもう一度見たいと思うのがすごい。今日もエレベーターに乗ったら、大きなポスターが貼ってあった。日本の伝統文化、能、狂言、歌舞伎を、日本の子どもたちが面白いと思うのは相当で、地域で後押ししないとそうはならない。子どもたちが伝統芸能の何に興味を持つのか、把握しているか。

生 飛島村の人口は、4,600人ほどである。

次 伝統芸能として、友だちが和太鼓を舞台上で演奏している姿を見て、凄いとなったようである。先生方も初めて見た方が多く「また見たい」と言っていた。

委 太鼓は興味があるとわかったが、能・狂言、伝統芸能は日本の中にいっぱいある。飛島にも獅子や太鼓、神楽が出てくるわけだが、こういうものを幅広く見る機会や興味を持つ範囲を広げてほしい。それと同時に、そのままの形で面白いだけでなく、その先に新しい伝統文化という要素を入れていくと良い。口で言うほど簡単ではないが、何よりふるさとフェスタのように、披露する場所があるのは良い。P16「友好都市交流事業」とあるが、どうして南種子町なのか。県内にも山間都市の望ましいところがあるのではないか。

生 ロケットの製造工場が飛島にあり、発射場を持つ南種子町と協定を結んでいる。また、愛知県の豊根村とも県内で二つの村ということで友好自治体提携を結んでいる。

部 毎年、南種子町からも交流で児童が来ている。

委 納得出来た。体力づくりの教室を拡大するというのは、また、課題が出てくると思うが、増やすにしても、この4種目は団体競技なので、個人種目の卓球とかバドミントン等の教室も含めたらいかかと思う。

P18「地域民俗芸能の伝承」であるが、学園の中で、部活動やクラブや総合学習で、地域の民族芸能とかをやったり、発表の場を用意したりするとよいかと思う。自分の住んでいるところには、ほとんど何も残っていない。愛西市でも、必死に取

組をしているが難しい。

P20「婦人会活動」であるが、よく頑張ってみえる。一層の団体育成とあるが、女性の方は集まられば、それはそれで非常に楽しいと思っているだろうが、育成するための具体的な手立てとなると、他の団体と常に一緒に活動は無理にしても、シルバーの人と一緒にやる等はいかがなものか。最近、こういう団体の中に所属することを敬遠される方も増えてきている。子ども会もなくなっていくこの頃である、是非、活性化して、広がっていくと良いと思う。

それから、図書館と児童館の人形劇はすごい。今、自分は児童館にいるが、もし、図書館から要請があっても「やりましょう」と言えない。どうしてこういうことができるのか、不思議である。

図 すこやかセンターの複合施設の中で、図書館と児童館は目と鼻の先にある。職員も村の職員であり、協力依頼はできる。児童館に遊びに来た子どもも一緒に連れてきていただくという形である。

委 そういうしくみがあるのが羨ましい。

「国際社会」の件で、去年も言ったが、アメリカの広大さ強大さを目の当たりにし、郷土を愛する心がどんなふうにも育まれていくのか。最後は国際的な友好関係に行き着くことができれば、最高だと思うが。具体的に、日本の良さ、飛島の良さを、向こうに行って、見る・聞く・体験し、帰って来た時に「ああ 向こうはすごいなあ」「こっちにも いいものがあったなあ」「これから自分の住むところをどうしていったら良いか」と、子どもたちが同じように受け止めるのか。すべてのアメリカの人とは言わないが、非常に合理的な考え方で、会議でも、指名されなくてもどんどん発言する文化とか、衣食住すべてが、中学生にとっては「すごいな」ということになると思うが、「日本はすごいな」「飛島はすごいな」と、どこをどういう風に思うかを聞いてみたい。報告書を200部発行し、報告会を行っているようだが、「向こうはすごいな」とか「こんなことしてきたよ」ということで終わるのかどうか。

次 29年度の報告会は、研修の目的(文化・歴史・産業・食等)に合わせて、グループでまとめ、6年生以上の生徒や保護者、地域の方にプレゼンを行った。生徒たちは、アメリカのスケールの大きさは言っていたが、きちんと日本の良さも認識していた。

「アメリカがすごい」じゃなく「アメリカと日本の文化の違い」として捉えていた。例えば、アメリカは、家の中でも靴を履き、「ただいま」ではなく「今日、こんなことがあったよ」と伝え、日本は、玄関で靴を脱ぎ、「ただいま」「おかえり」と挨拶をすると報告していた。アメリカのスケールに対して、日本の繊細さを伝えるグループもあった。また、応募審査会で「行くまでもう少し英語の勉強をして、多くの人とコミュニケーションがとれるようにしたい」という生徒も何名かいた。アメリカの人たちに、日本の文化や飛島村の良さを伝えることも行っているが、生徒たちは、日本や飛島村が大好きであり、文化や日本の製品に誇りを持っていることもわかった。このように、すばらしい事業ではあるが、中には、スポーツの大会で

行けない子がいたり、私立に通う子がいたりするために、授業を使うことは難しいが、それでも、学園は総合の時間等で取組を行っていただいている。そこで、月曜日の授業後1時間を教育課でいただき、海外研修に向けての準備や報告会に向けての取組を行っている。

委 安心した。「ああ、向こうはすげえな！」と思って帰ってきて、「飛島みたい住みたくないわ」という子が、続々と出てきたら本末転倒である。「アメリカはすごいな。でも飛島は良いわ」と思ってくれる子が増えてくれればと思う。以前、「村と言われるのがいや」という子がいた。今、愛知県に村は2つであるが、いろんなところへ行っても、「やっぱりここが良いわ」と思ってくれる子が、どんどん増えてくれることを願っている。

4 教育長 お礼